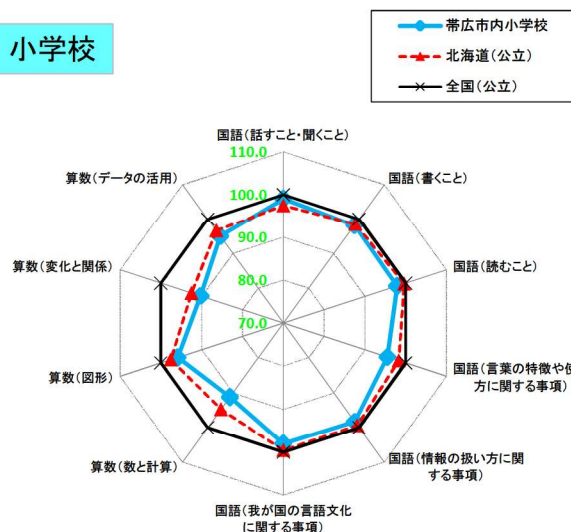


■帯広市内の状況及び学力向上策（小学校数:26校、児童数:1211人）（中学校数:14校、生徒数:1157人）

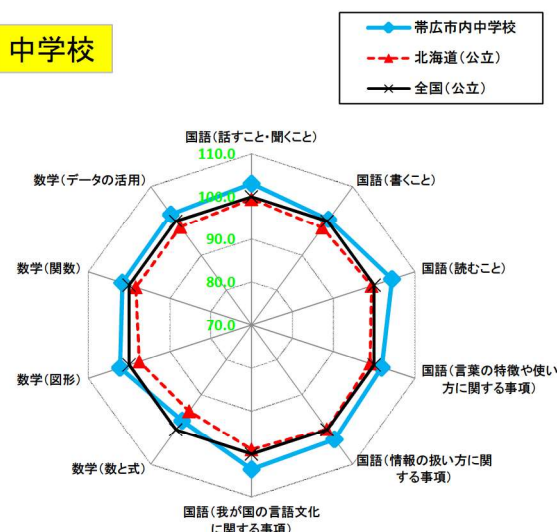
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

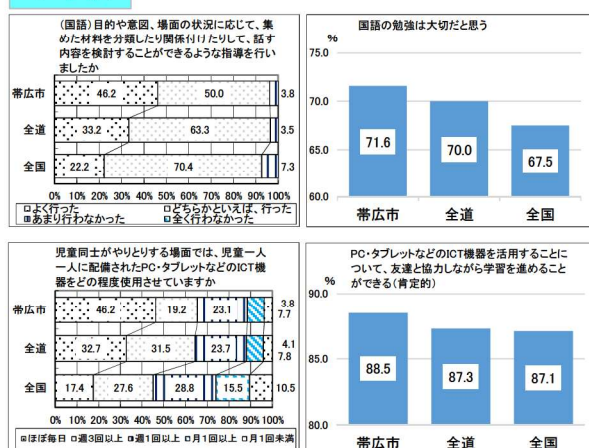


中学校

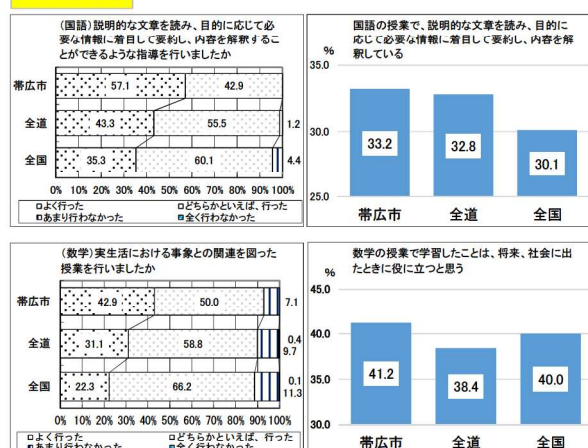


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈できるような指導を行ったことにより、国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全領域全事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【帯広市の学力向上策】

- ◎ 中学校区を基本とした「エリア・ファミリー」の代表者で組織した帯広市学力向上推進プロジェクトチームにおける各種調査結果等の分析及び課題や取組の共有
- ◎ 科学研究費助成事業における大学教授と連携した授業改善の推進
- ◎ 教職員を対象とした長期休業時研修における1人1台端末に係る研修講座等の開催及び教職員の資質能力の向上、授業改善の推進
- ◎ 「重点化」と「共有化」をキーワードとした学力向上に係る1校1実践の取組

【Webページ】

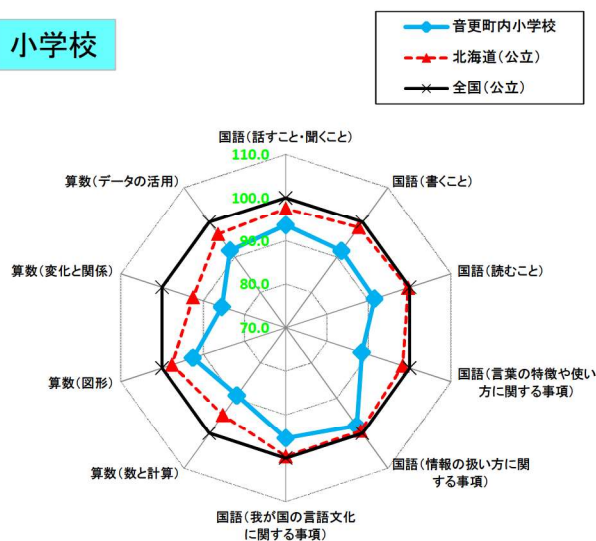


■音更町内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:379人）（中学校数:5校、生徒数:377人）

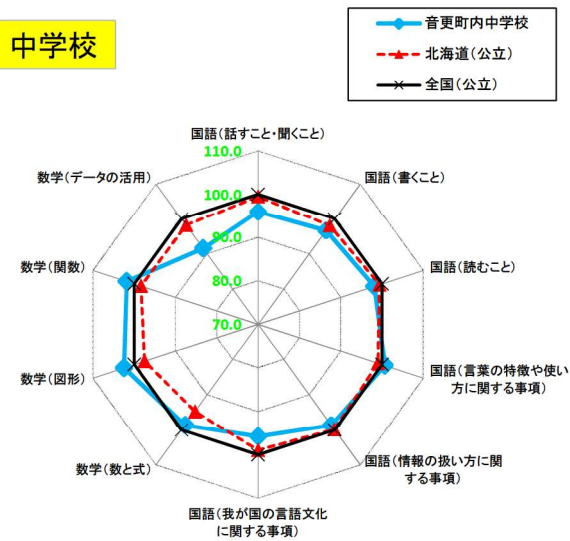
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

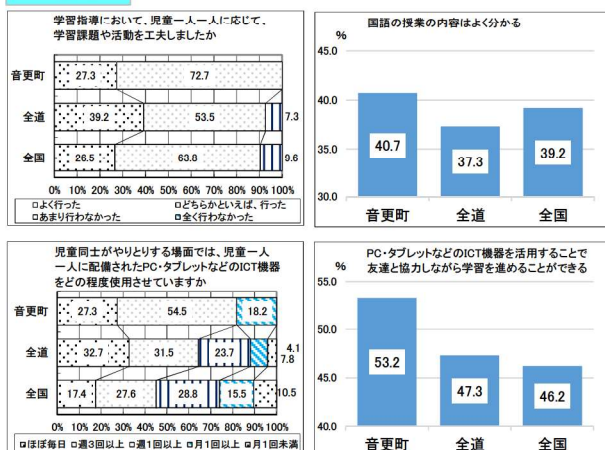


中学校

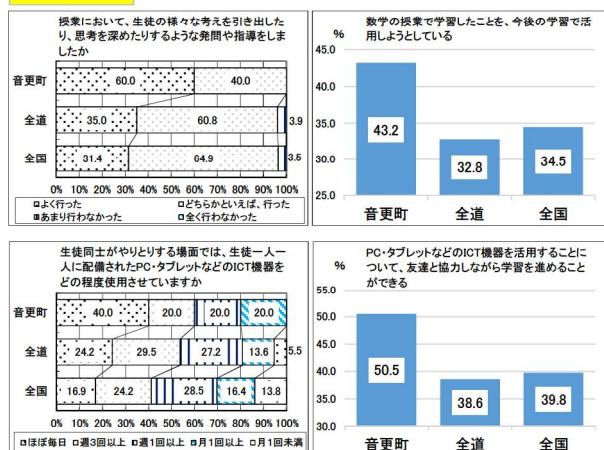


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【音更町の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 授業におけるICTの効果的な活用に向けた音更町教育研究所主催によるGIGA端末活用研修会の実施

【Webページ】



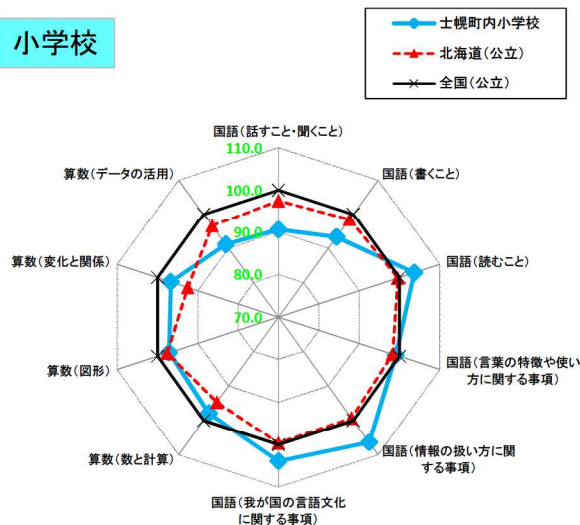
(R7.4掲載予定)

■士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:40人）（中学校数:1校、生徒数:43人）

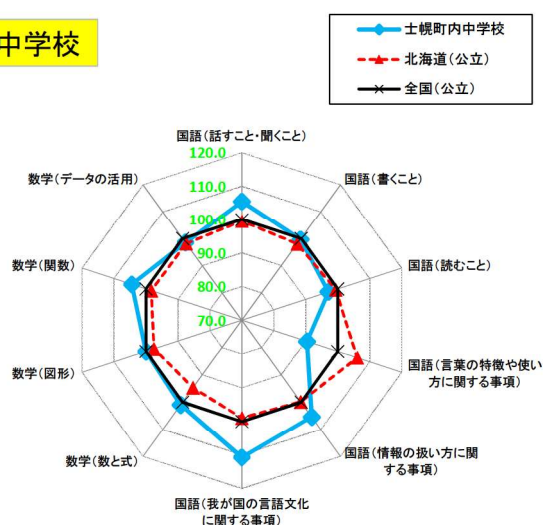
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

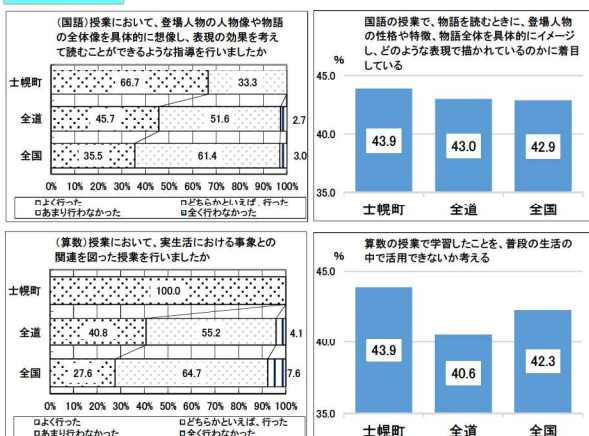


中学校

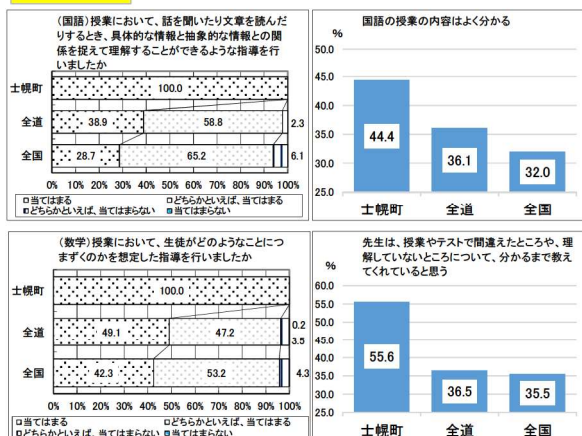


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするとき、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【士幌町の学力向上策】

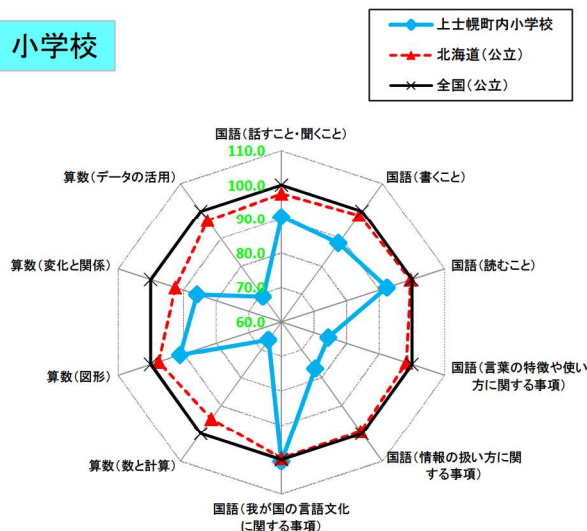
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づく児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析に基づく児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現

■上士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:24人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

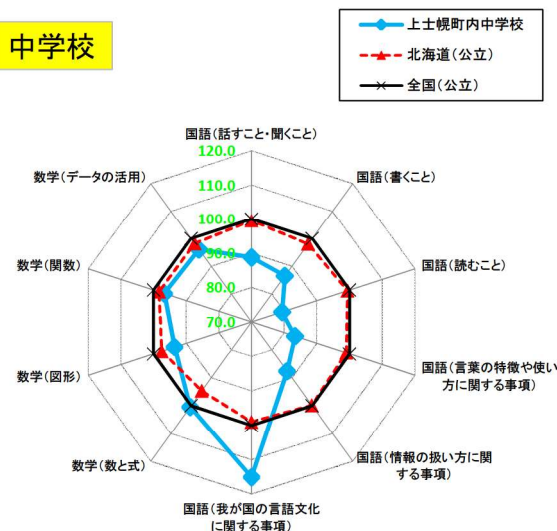
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

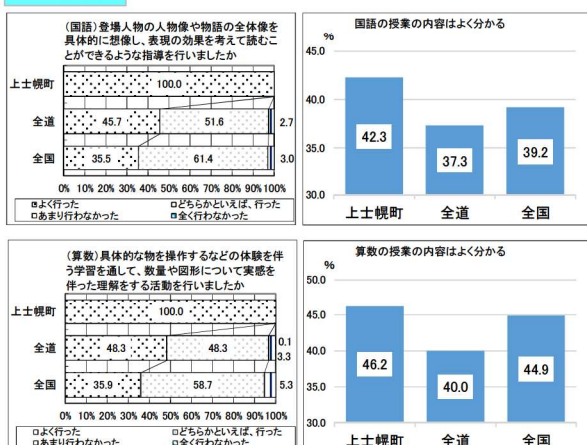


中学校

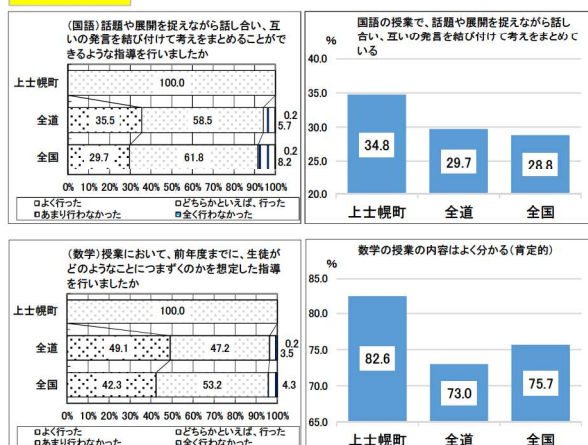


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、前年度までに、生徒がどのようなことにつまずくかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上士幌町の学力向上策】

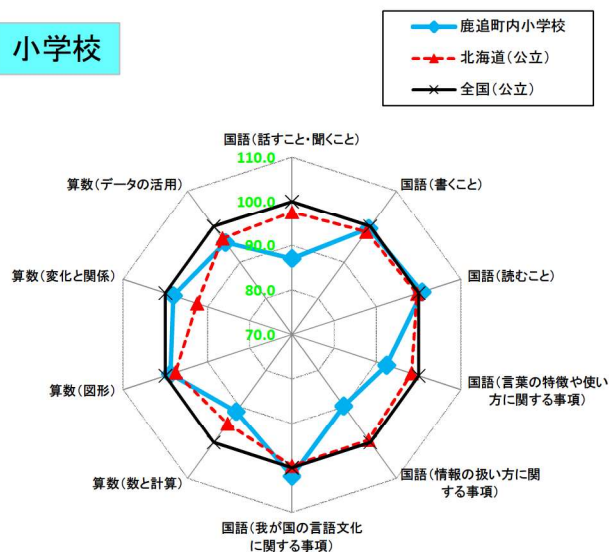
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善及び質の高い授業づくりの推進
- ◎ 情報活用能力を高めるとともに学びを深めるためのICT端末の利活用
- ◎ こども園から小・中学校までの目指す子ども像を共有することによる一貫した教育の推進
- ◎ 小・中学校と家庭の連携による規則正しい生活リズムと学習規律の徹底

■ 鹿追町内の状況及び学力向上策 （小学校数:5校、児童数:50人）（中学校数:2校、生徒数:46人）

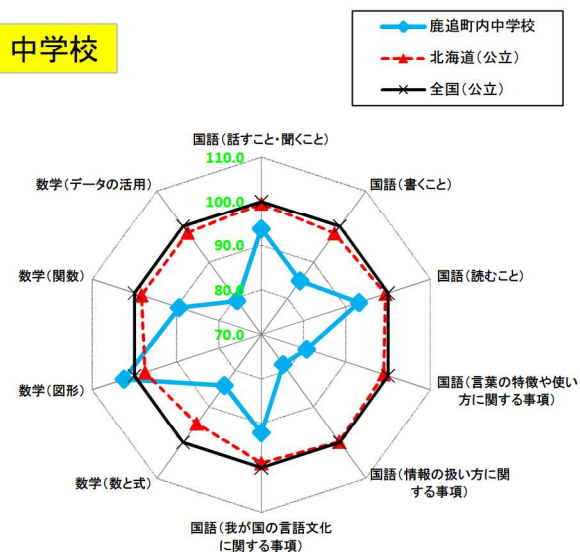
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

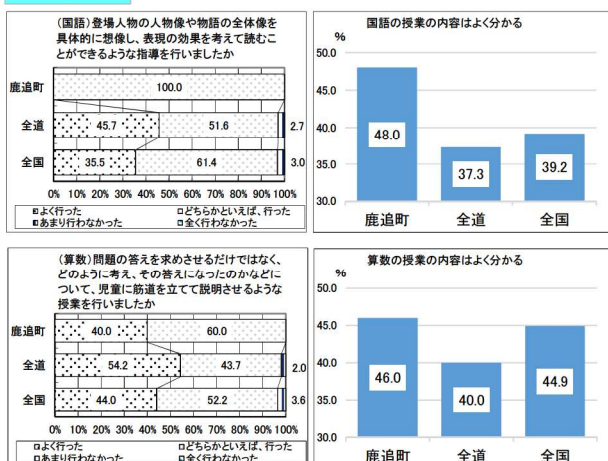


中学校

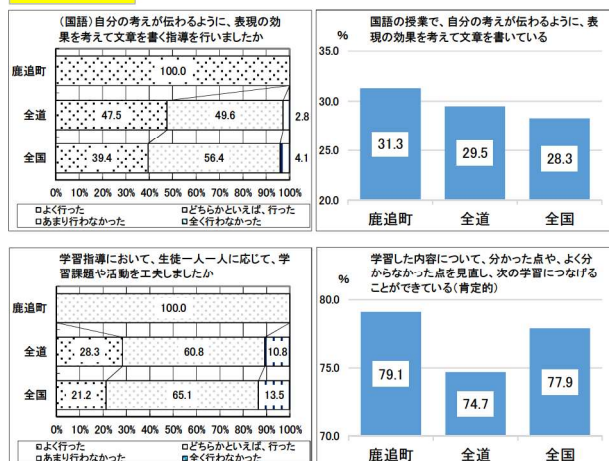


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かることと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かることと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えながら文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えながら文章を書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鹿追町の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた探究活動の充実
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び学習過程の統一による系統的な指導の推進

【Webページ】

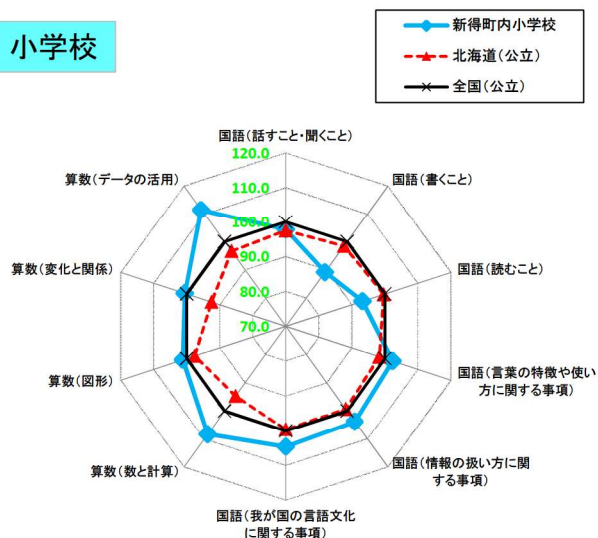


■新得町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:41人）（中学校数:3校、生徒数:34人）

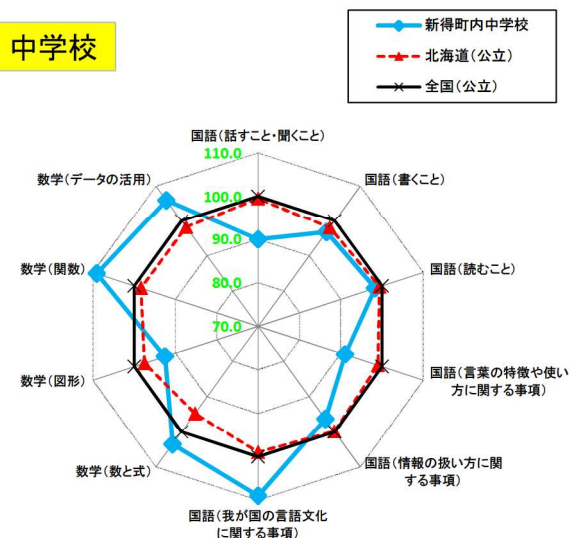
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

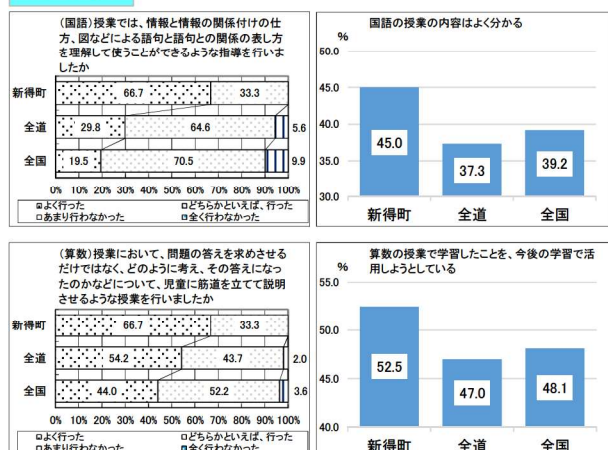


中学校

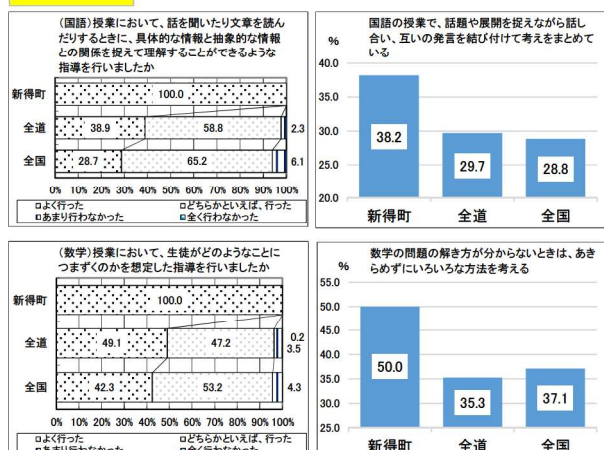


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の全領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えて回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新得町の学力向上策】

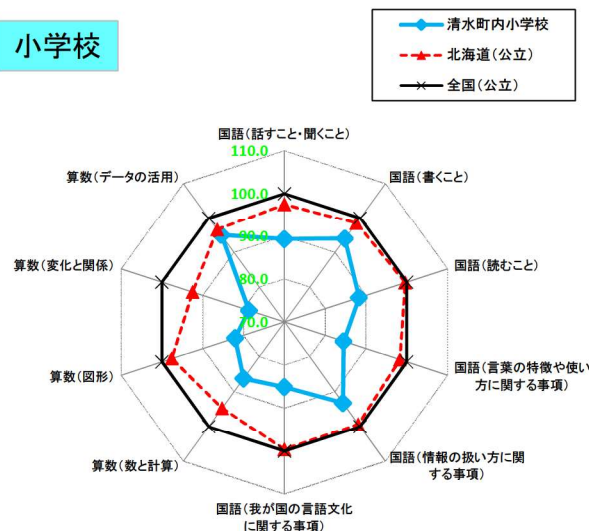
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 町費負担教員の配置による個に応じたきめ細やかで効果的な学習指導に向けた体制の充実
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■清水町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：63人）（中学校数：2校、生徒数：68人）

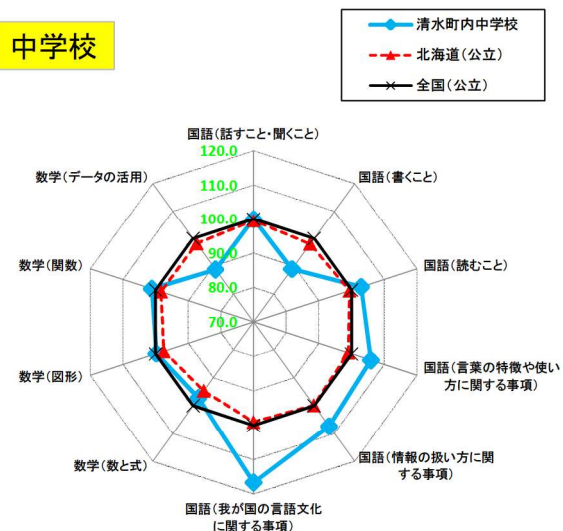
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

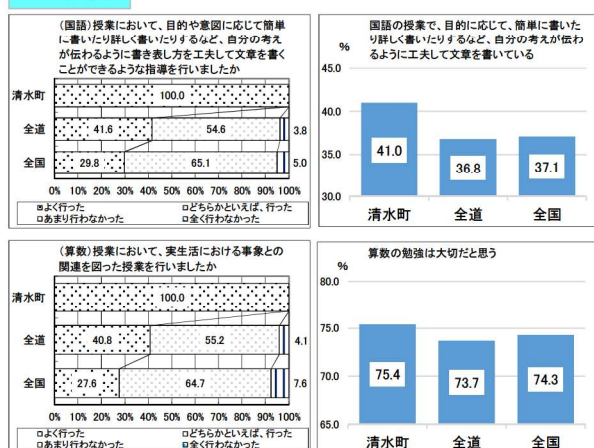


中学校

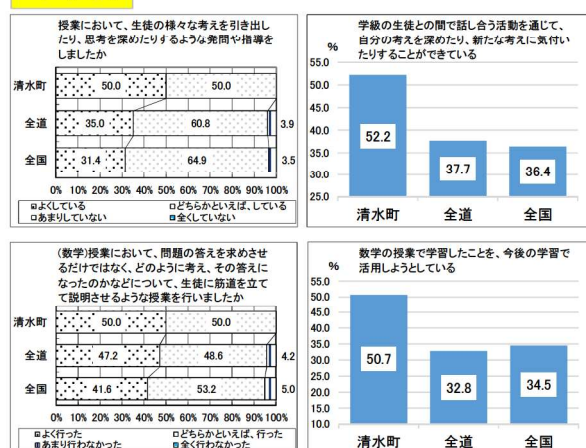


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った活動を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができるかと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【清水町の学力向上策】

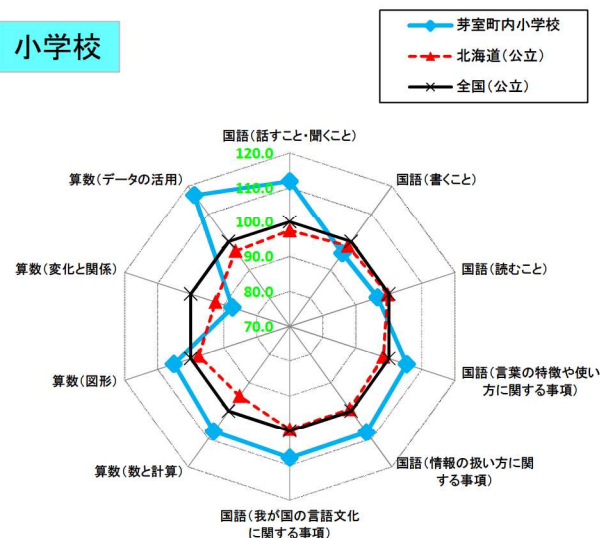
- ◎ 小学校国語科における、指導事項の系統性を見据え、言語活動の充実を図った授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■芽室町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:168人）（中学校数:3校、生徒数:161人）

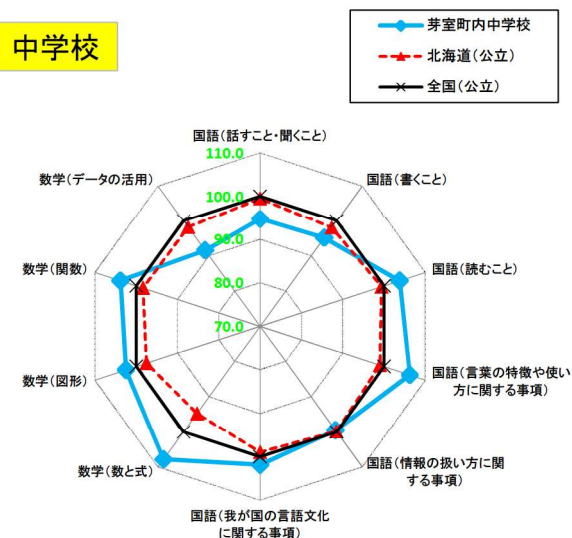
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

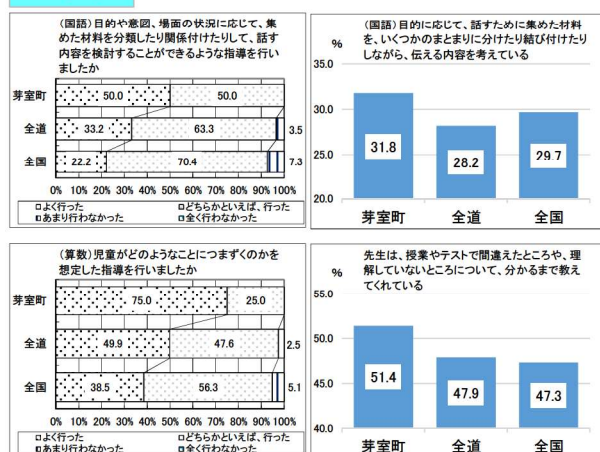


中学校

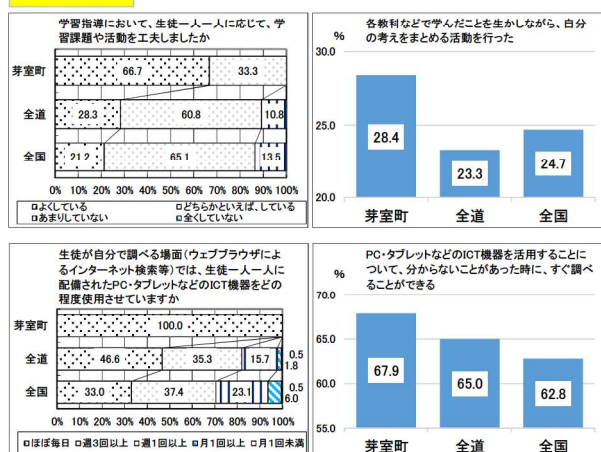


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討する指導を行ったことにより、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 生徒が自分で調べる場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるかと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【芽室町の学力向上策】

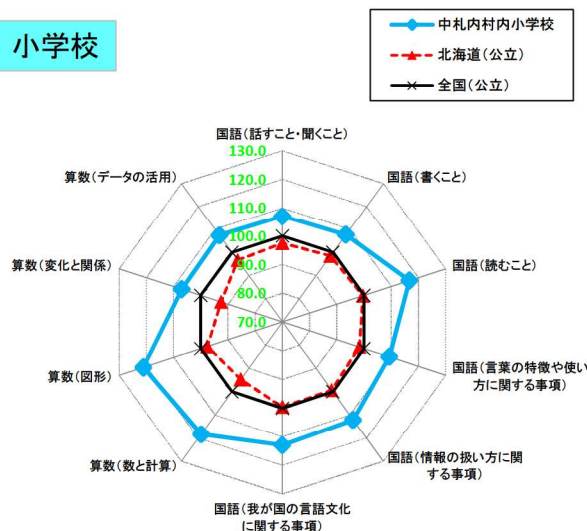
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 基礎・基本の定着に向けたAIDリル及び電子黒板の有効活用
- ◎ 芽室町小中一貫教育基本方針に基づく義務教育9年間の一貫性のある教育の推進

■中札内村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:37人）

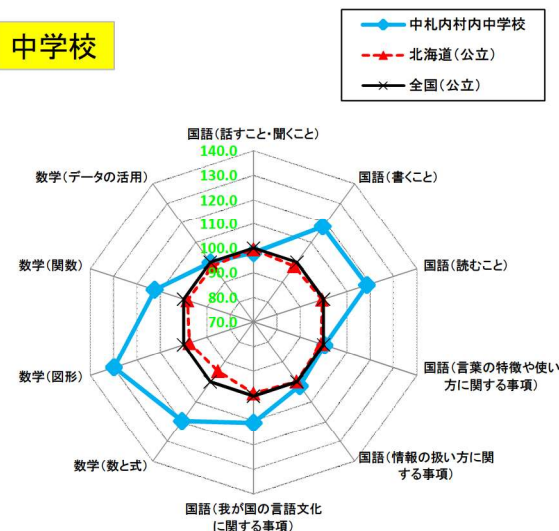
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

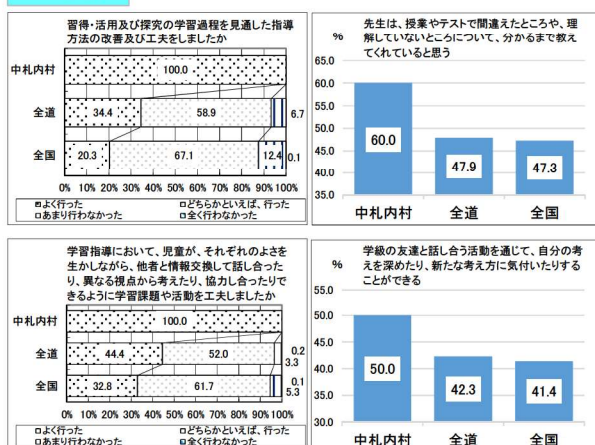


中学校

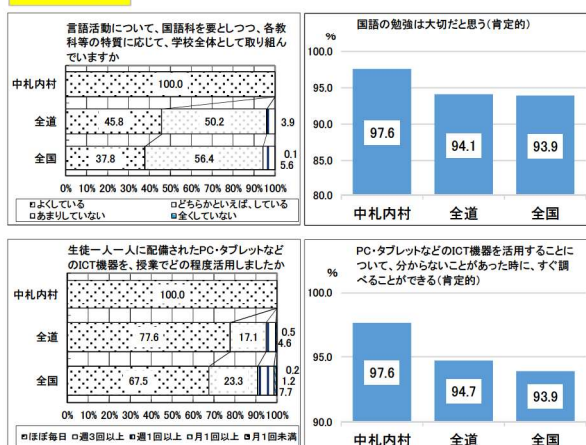


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないことについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全領域全事項及び算数の全領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域全事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したことにより、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるという肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【中札内村の学力向上策】

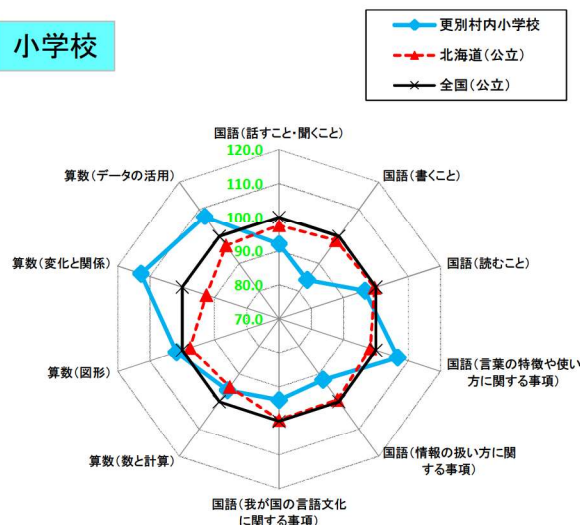
- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 1人1台端末やデジタル教材を効果的に活用した基礎・基本の徹底及び習熟度別・TT指導による個に応じた指導の充実に向けた加配教員の活用
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

■更別村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:27人）

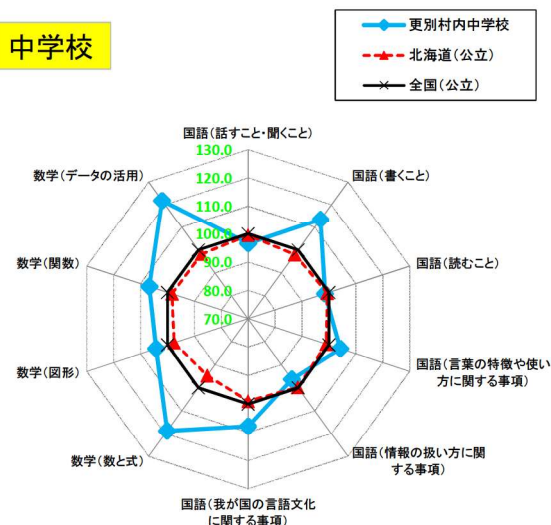
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

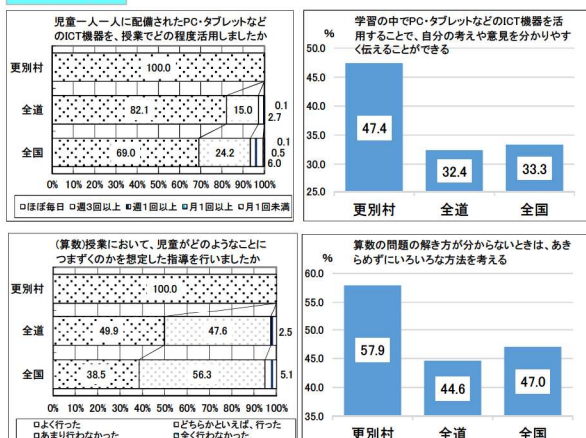


中学校

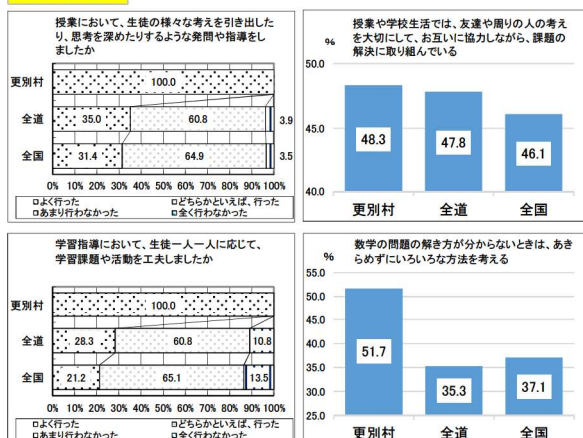


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用したことにより、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら、課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【更別村の学力向上策】

- ◎ 小中連携に向けた「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ 児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 長期休業中における教職員の実践的指導力向上に向けた中札内村・更別村合同研修会の実施

【Webページ】



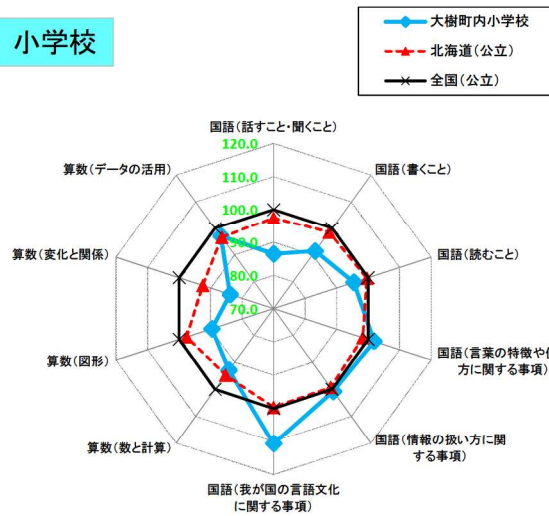
（R6.12掲載予定）

■大樹町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：40人）（中学校数：1校、生徒数：40人）

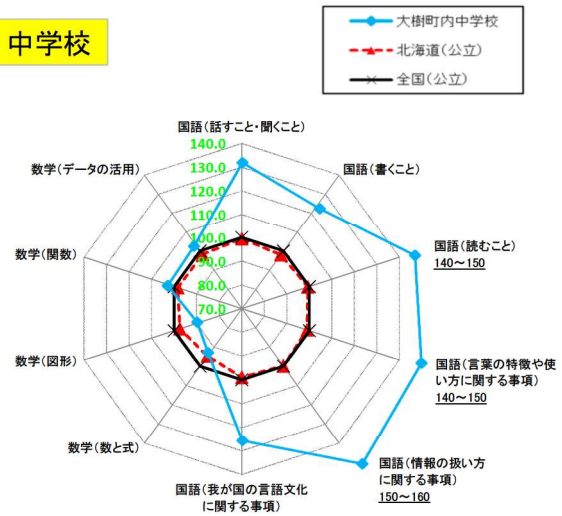
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

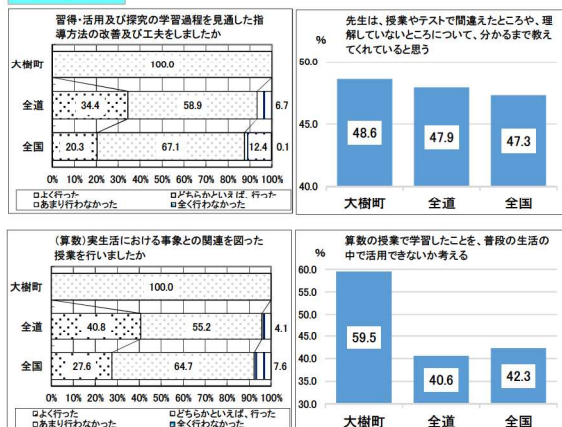


中学校

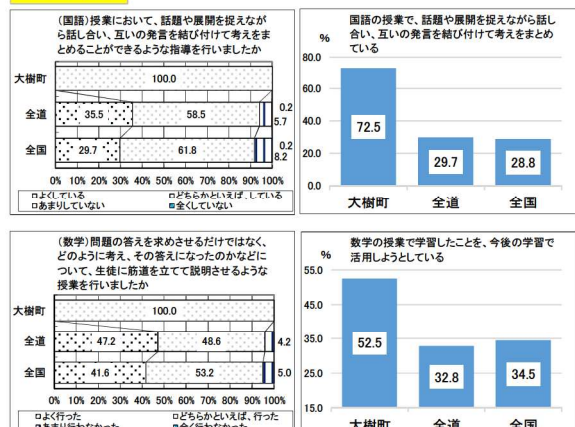


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善・工夫をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全領域全事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると回答した生徒の割合が全国、全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【大樹町の学力向上策】

- ◎ 算数科「図形」、「変化と関係」の領域及び数学科「関数」の領域における系統性を見据えた指導及び日常生活と関連付けを図る授業改善の推進
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

【Webページ】



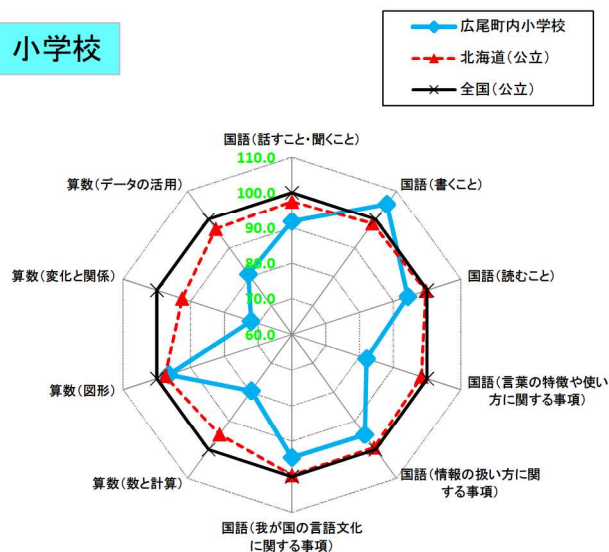
（R6.11掲載予定）

■ 広尾町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:34人）（中学校数:1校、生徒数:50人）

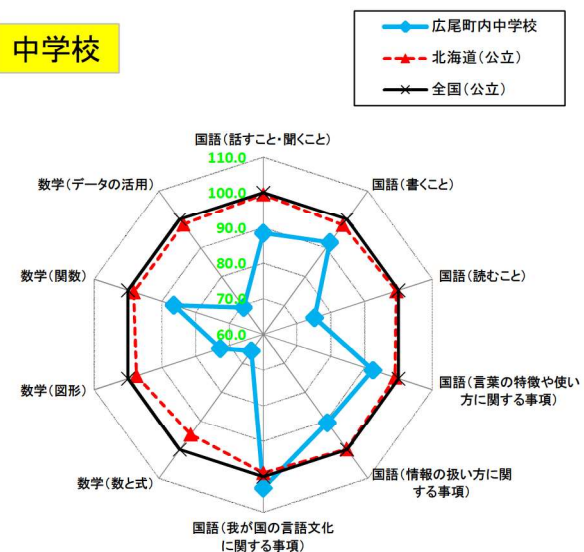
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

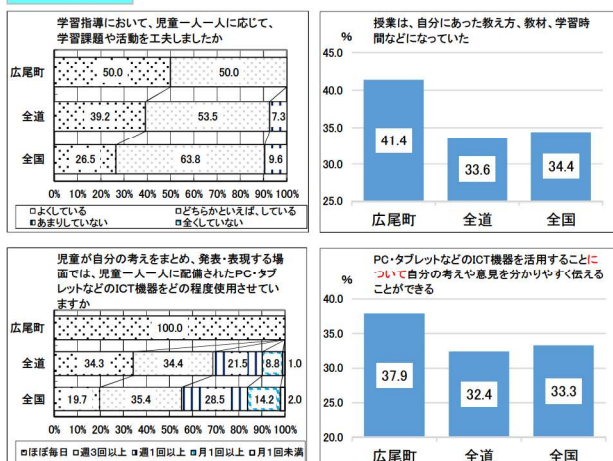


中学校

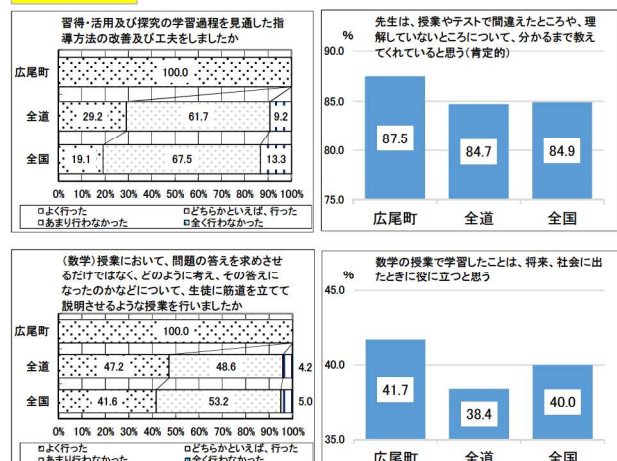


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配慮されたPC・タブレットなどのICT機器を使用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【広尾町の学力向上策】

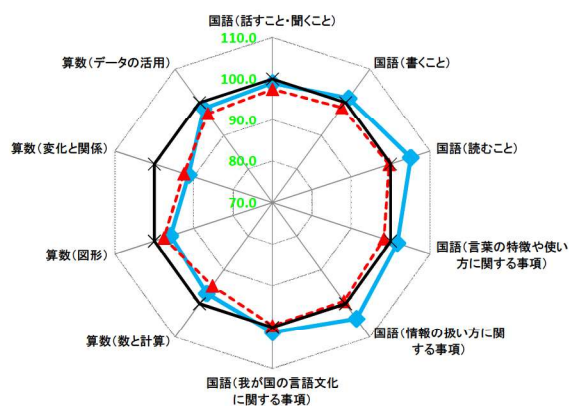
- ◎ 「学校力向上に関する総合実践事業」を活用した授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した学習指導の充実
- ◎ 小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成

■幕別町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:184人）（中学校数:5校、生徒数:186人）

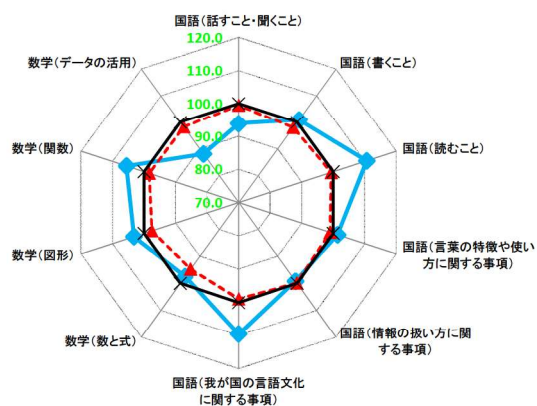
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

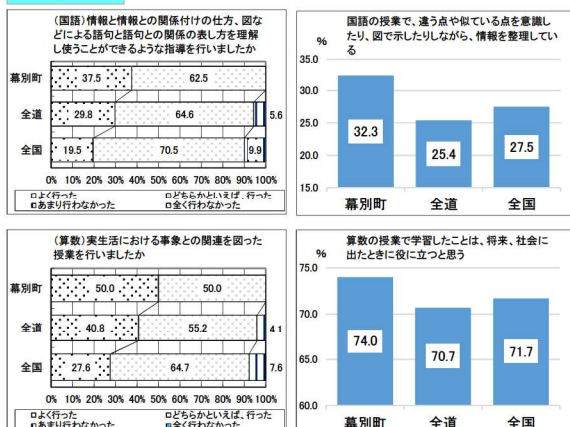


中学校

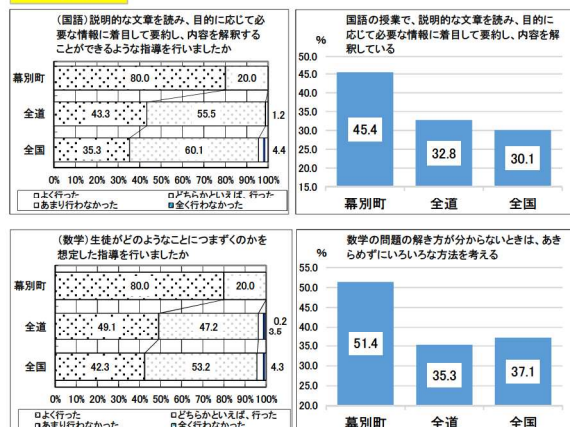


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の2領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【幕別町の学力向上策】

- ◎ 中学校で成果があった取組を小・中学校の全教職員で共有するなど、小・中学校が連携した検証改善サイクルの確立
- ◎ 小・中学校による授業参観の継続や9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした合同授業改善研修会の開催
- ◎ 児童生徒自身が、1人1台端末を活用して家庭学習を行えるようにするための指導や授業との関連、家庭との連携の推進
- ◎ 社会教育と連携することによる地域人材を効果的に活用した放課後学習サポートの実施

【Webページ】

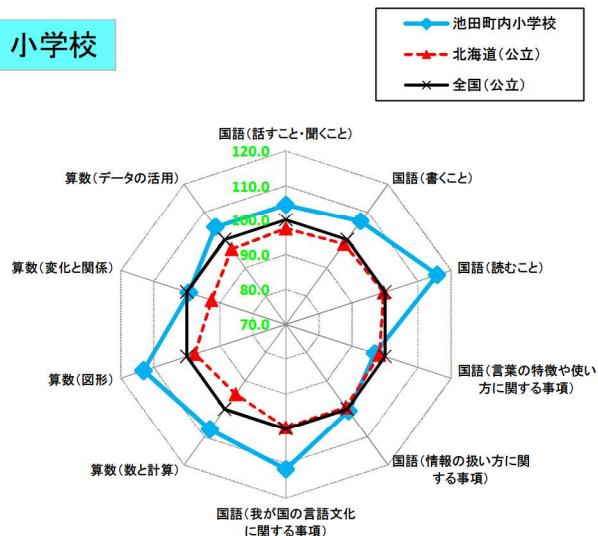


■池田町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：24人）（中学校数：1校、生徒数：35人）

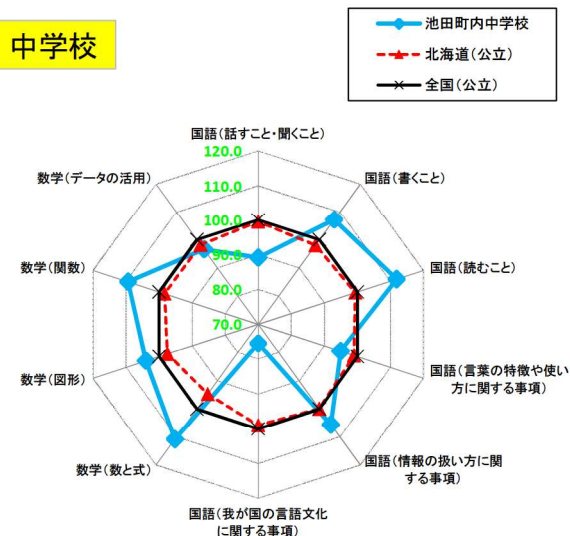
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

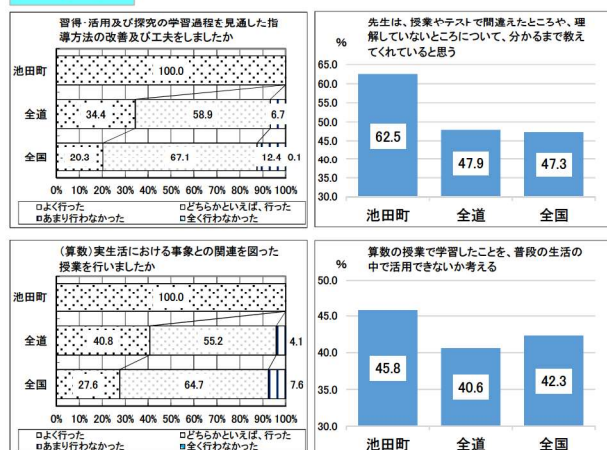


中学校

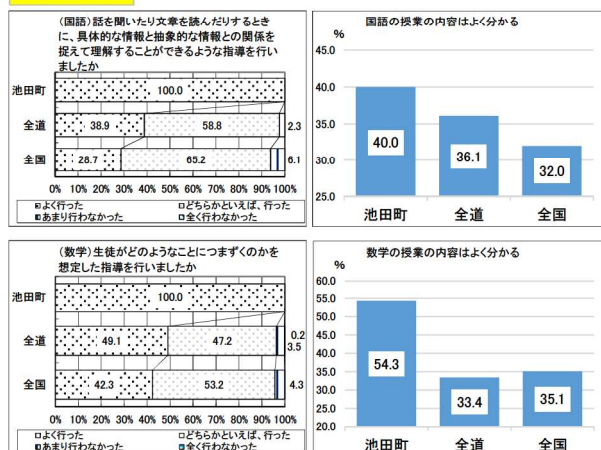


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、先生は、授業やテストに関連したところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【池田町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果分析を踏まえた児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた義務教育9年間を見通した授業改善の推進
- ◎ 小学校での少人数学級による指導や中学校での習熟度別指導等による個に応じた指導の充実
- ◎ 各教科等におけるICTを効果的に活用した指導による児童生徒の学習意欲の向上に向けた取組の推進

【Webページ】

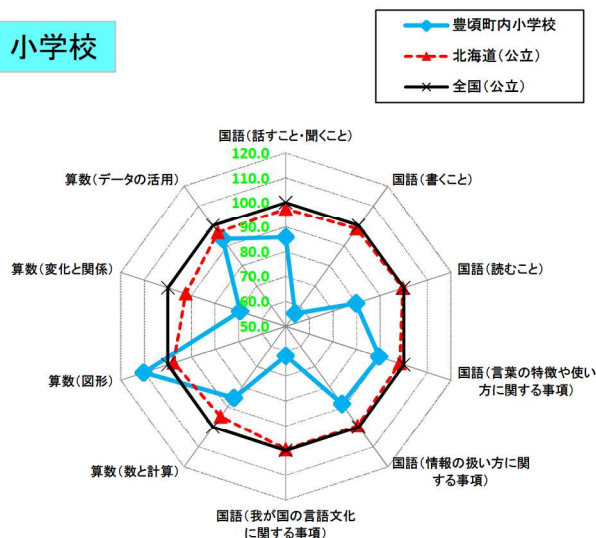


■豊頃町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:13人）（中学校数:1校、生徒数:16人）

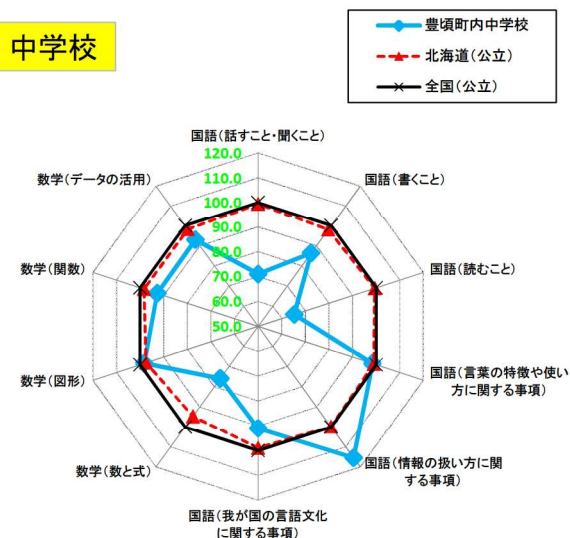
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

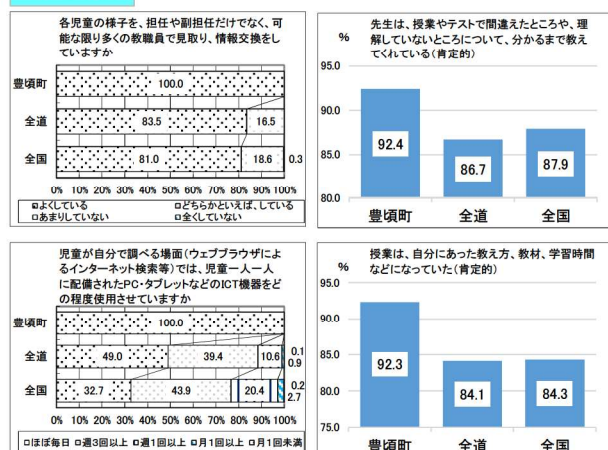


中学校

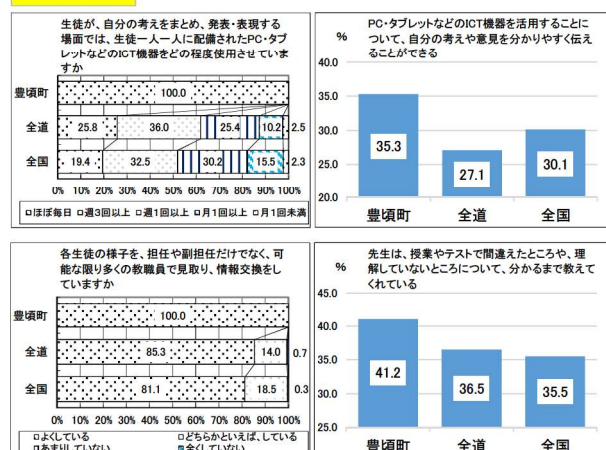


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童が自分で調べる場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【豊頃町の学力向上策】

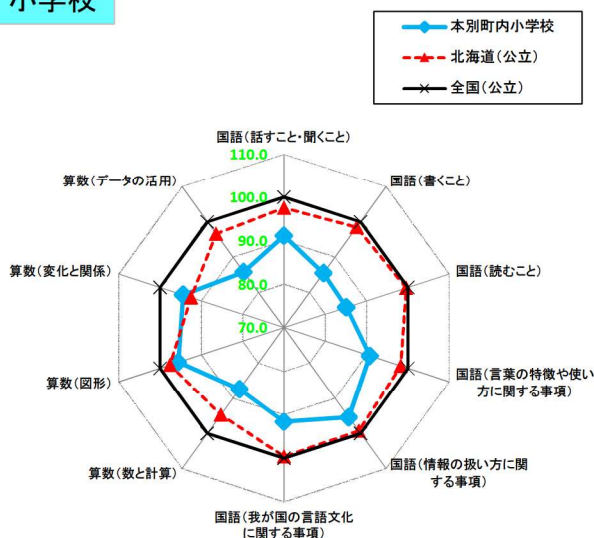
- ◎ 小学校国語科における、主体的・対話的で深い学びに向けた、指導事項の系統性を見据えた授業改善の推進
- ◎ 学校課題の解決に向けた組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 個別最適な学びの実現及び児童生徒の思考力、判断力、表現力等を高めるための1人1台端末の効果的な活用

■本別町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:41人）（中学校数:2校、生徒数:31人）

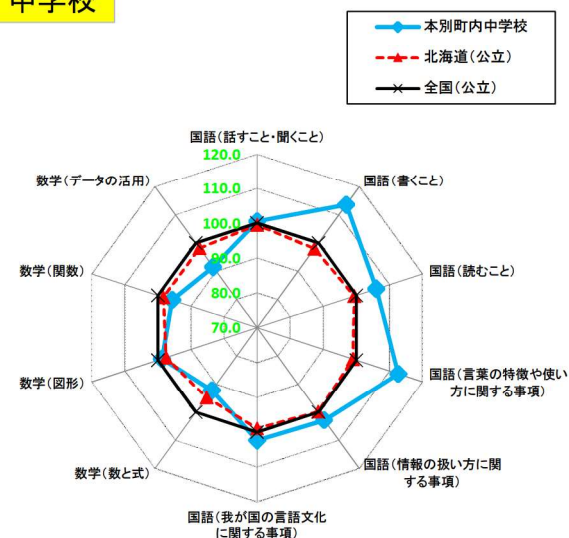
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

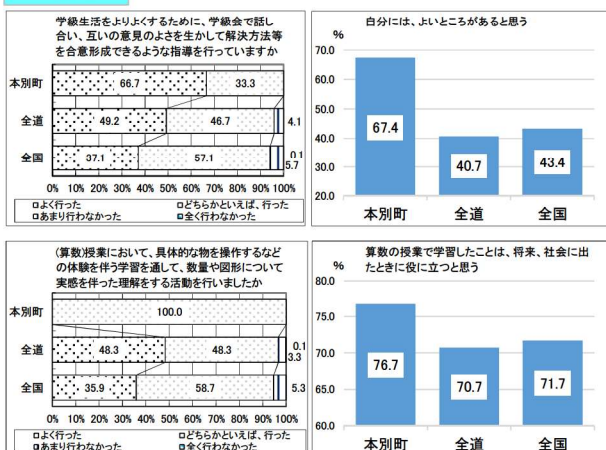


中学校

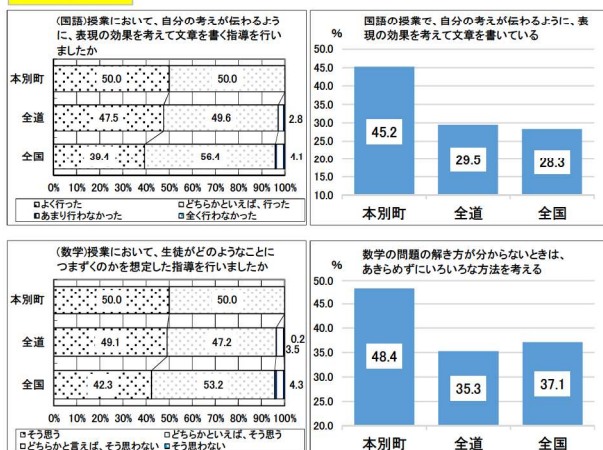


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全領域全事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【本別町の学力向上策】

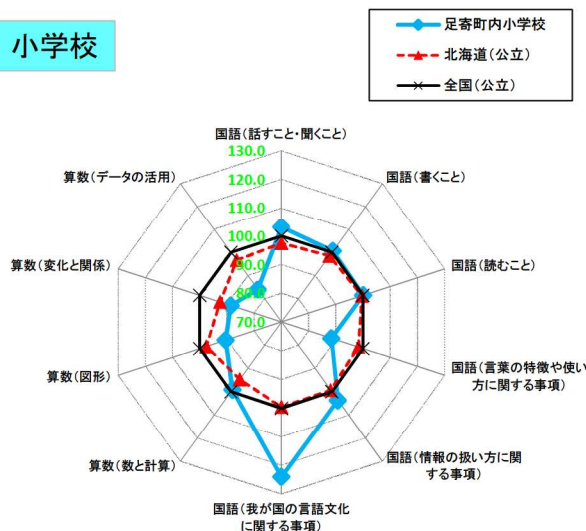
- ◎ 町内学力向上プロジェクトによる算数・数学を中心とした授業改善の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への乗り入れ指導及び教科担任制の実施など小中連携の取組の推進
- ◎ 家庭における学習習慣の確立及び小・中学校の連携した取組の推進

■足寄町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：40人）（中学校数：1校、生徒数：42人）

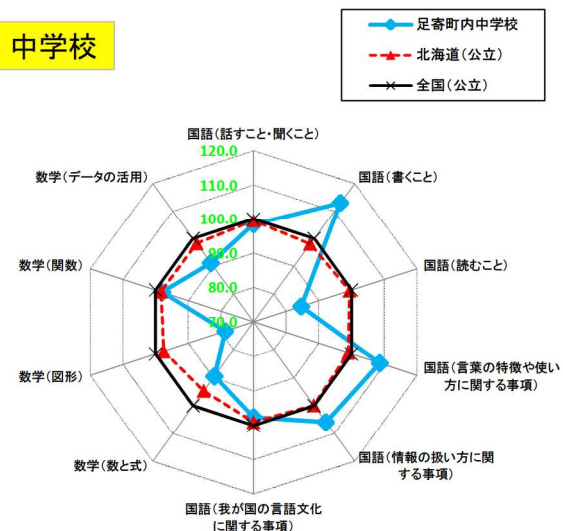
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

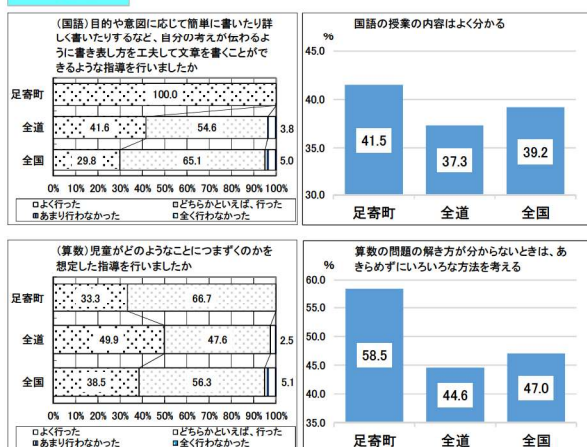


中学校

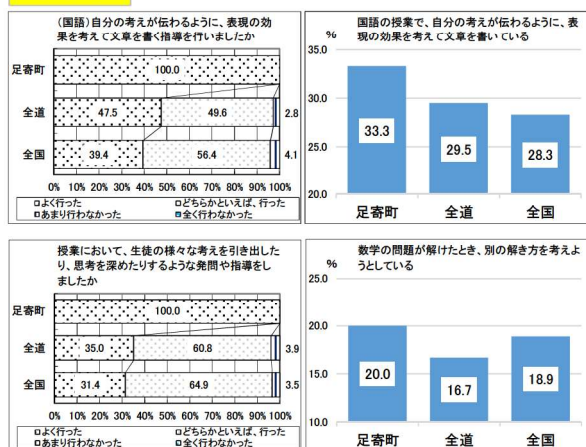


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 算数の授業において、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えてみるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書いていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【足寄町の学力向上策】

- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学習アプリによる読解力向上を図る取組等、学校課題の改善に向けた1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 町の支援員等を活用した習熟度別・少人数指導による個に応じた指導の充実

【Webページ】

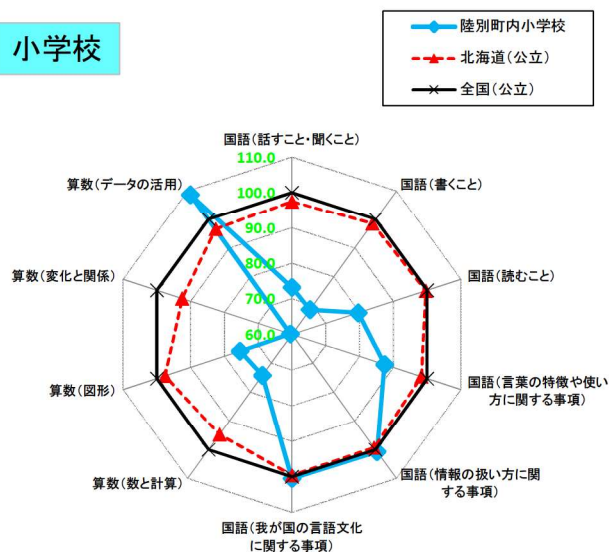


■陸別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:16人）（中学校数:1校、生徒数:12人）

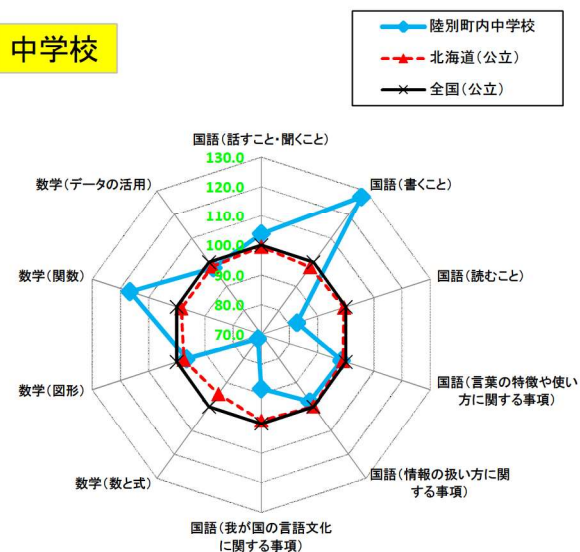
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

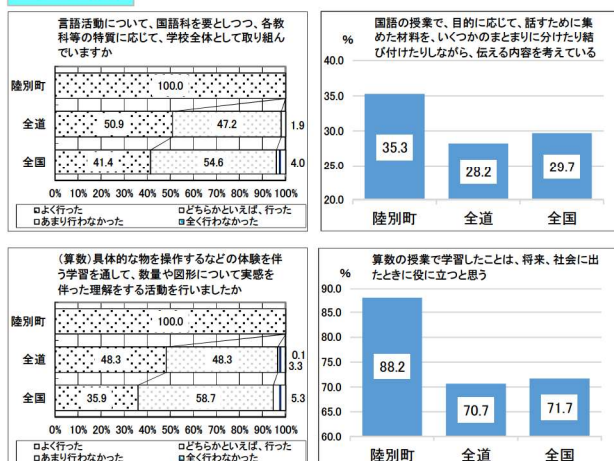


中学校

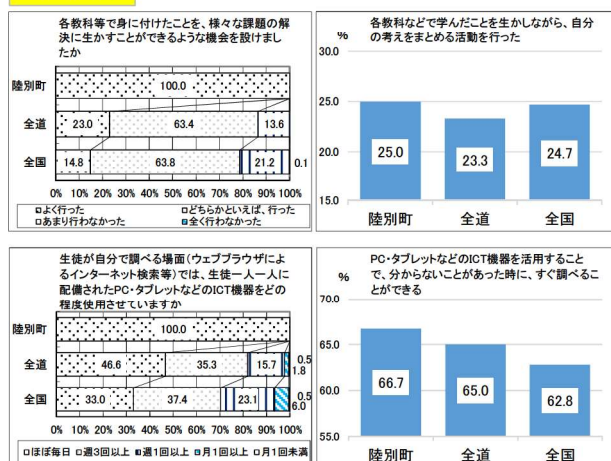


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感をつけた理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域、数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒が自分で調べる場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させたことにより、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【陸別町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育を推進し、小・中学校の分析成果を共有した検証サイクルの確立
- ◎ 小・中学校合同による研修会や、日常的な相互授業参観、乗り入れ指導の実施
- ◎ 各教科等における1人1台端末を活用した個別最適な学びの実現に向けた取組の充実

【Webページ】



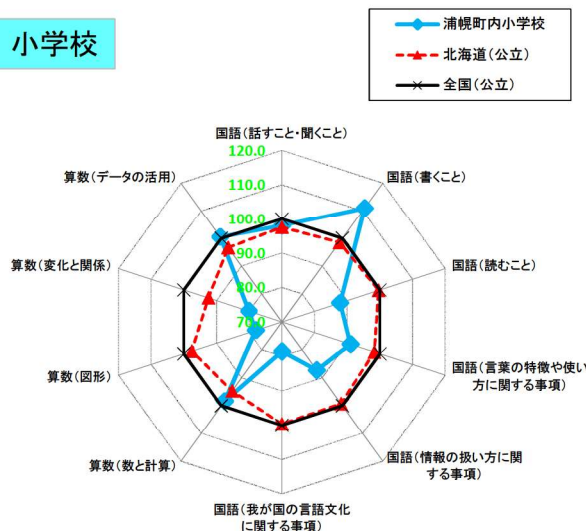
（R6.12掲載予定）

■浦幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:29人）（中学校数:2校、生徒数:36人）

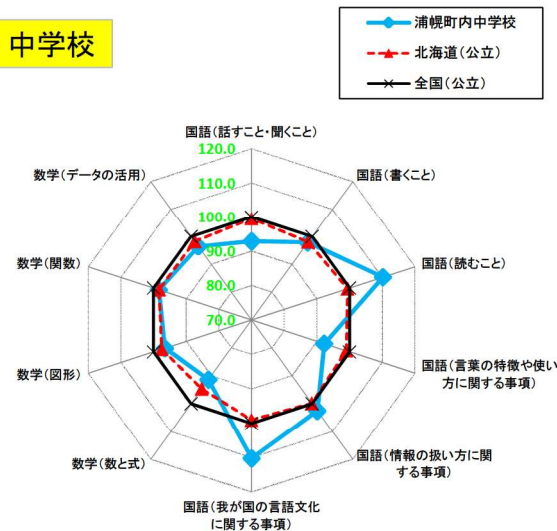
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

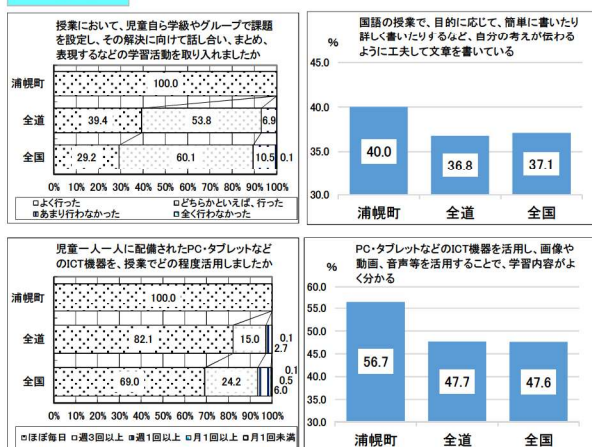


中学校

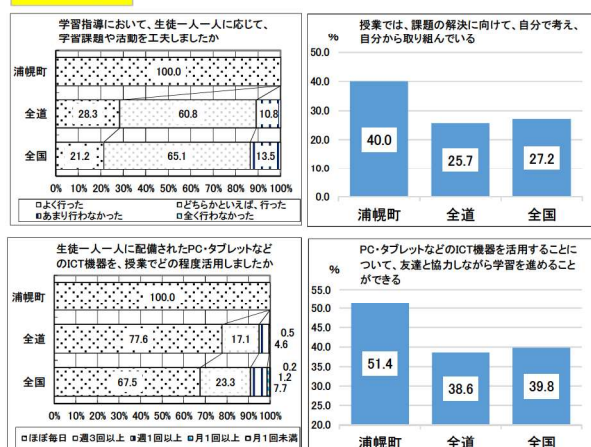


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域で全国平均正答率が及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したことにより、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浦幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析及び課題を明確にした数値目標の設定による検証改善サイクルの確立
- ◎ 思考力、判断力、表現力等を高めるための小学校における言語活動の充実や中学校における課題解決的な授業の実施
- ◎ 小・中学校及び子ども園等の合同の研修会や中学校教員による乗り入れ指導等の実施
- ◎ 小中一貫コミュニティ・スクールの取組における学習ルールの統一及び家庭学習の取組の推進